

図書室から Book Guide No.252

おまつりをたのしんだおつきさま

マーシュ・コラブ/文
レオビルド・マルティノス/絵
さくまゆみ/訳

のも書店
1600円+税

メキシコのオアハカ州に伝わるお話です。オアハカ州には十七の民族が八つの地域に住んでいて、さまざまなおまつりが伝わっているそうです。そのむかし、お月さまは夜、人ひとが夢を見るのを星たちと見守っていました。昼間のお月さまと夜のお月さまと、それぞれが満足していました。でもあるとき、「おひさまの空に引っ越したい」という星たちのおしゃべりを聞いてしまい、お月さまは、おひさまの空をのそいでみることにしたのです。おひさまの下で繰り広げられる「おまつり」を見たお月さまは、夜にも「おまつり」をしようと考えます。さて、どんなおまつりになったでしょうか。

なが い 編集後記 84

ありがとう。頑張ったね！

◆センターの庭を我が物顔に闊歩するのは「猫」と「カラス」だけ。「緊急事態宣言」の名のもとに主人公を失ったセンターの風景だった。緊急事態宣言発令当初、地域の中を自転車で走り回っていた子どもたちは、いつしか見かけなくなっていた。

◆「本当に我慢してくれているのだろう」と、ひしひしと感ずることができた。遊びたい盛りのおもたち、それも元気なのに外に出ることができないためにストレスを感じてイライラしている子どもたちを家に留めておく親たちの苦労は大変なものであったに違いない。親もさぞやストレスがたまっていたに違いない。おじいちゃんおばあちゃんだって、孫に会えない辛さを感じていたのに違いない。

◆「医療従事者に拍手を！」とマスコミで言っていた。確かに命がけて人命と向き合ってくれている皆さんには畏敬の念を覚え、感謝を申し上げる。感謝を申し上げるのは医療スタッフだけではなく、広く子どもたちを含む、そして自分も含めてすべての人たちが拍手の対象なのではないだろうか。

◆収入が途絶えて店舗家賃が出ていくだけの事業主さん。アルバイトが無くなった学生さん。感染が治癒したにもかかわらず、まるで黴菌であるかのように言われた関係者の皆さん。ライブ場所を失い、収入が途絶えたアーティスト。県をまたげずに介護にも通えなくなった方。入学式は終えたものの一日

たりとも学校に行けていない子どもたち。みんなみんな耐え忍んでいる。この耐えていたことが、緊急事態宣言が解除されたからと言って、全てが解決するわけではないだろうことは誰もが知っている。

◆最近、「新しい生活様式」という言葉を耳にするようになった。テレワーク、時差出勤、お店はデリバリーとなり、授業はパソコンで行われ、テレビではリモート出演なるものが当たり前になり、これらを「新しい生活様式」と言うのだろうか？ だとしたら「不自由さを工夫によって耐え忍べ」という言葉に聞こえてしかたがない。「苦肉の策」で何としても生き延びようとする工夫が、改善点のヒント程度ならまだしも、「新しい生活様式」とは言い難いのではないか。

◆子ども文化センターでは、キャンプを中止せざるを得なくなり、年間計画は宙に浮いている。しかし、時の状況を見定めながら、まだ修正はきく。だが、夏の甲子園が無くなり、吹奏楽、合唱等のコンクールが中止をやむなくさせられ、目標をもぎ取られた高校生らのやるせなさ誰がどのように受け止められるのか。

◆「新しい生活様式」で片づけてほしくはない。拭うことのできない代償の上に立ち、宣言解除がある。ここは、「本当にありがとう。みんなが頑張ったおかげだよ。でも、まだ終わったわけじゃない。不自由さは残るけど皆で辛抱しかないね。頑張ろう！」という言葉で良いのではないだろうか。 統括館長：針山直幸

NPO Akaiyane 特定非営利活動法人 あかい屋根

NPOあかい屋根広報紙 発行: 特定非営利活動法人 あかい屋根 ひまわり編集部 044-976-0444

ひまわり 第 526 号 2020/6/1

子ども文化センター 6月1日から再開
団体利用は6月19日(金)から



当分の間：9：30～19：30（日・祝は16：30）施設消毒のため

室内での「運動」はできません



お願い
します

- ・室内ではマスクを着用してください。
- ・ソーシャルディスタンスをとるように心がけてください。
- ・手洗い・手指消毒・うがいをこまめにしてください。
- ・発症があった場合、接触者がわかるよう入館票に必ず記入してください。
- ・飲食は原則禁止です。水筒を用意、ペットボトルは持ち帰り願います。
- ・体調がすぐれない場合、利用はご遠慮ください。

マスクをしよう



菅生子ども文化センターでは、新型コロナウイルス緊急事態宣言発令されて休館中の間に少し模様替えをしました。

しばらくの間、室内の運動は禁止となりました。外遊びならOKのようですので、ネットを登り、ハンモックのように寝そべて空を眺められるようにと、職員でネット遊具を作りました。

そして、図書室の児童図書を整理して、「絵本」が中心の図書室に変身させました。ギッシギシで引き出しにくかった本がスムーズに手に取ることができるようになり、空いている書棚には、絵本に登場する人形などを飾り、手に取って遊べるようにすることができました。閉館によって、思わずできた時間を有効的に活用することができました。また書籍はデータベース化してありますので、センターにあるかどうか確認することができます。ご活用ください。

蔵敷子ども文化センターでは、本紙5月号でお知らせした図書室の改装のほか、下駄箱のペンキ塗り替えや枝の伐採など環境整備に取り組みました

今年度の わんぱく生活学校 中止!!

昭和52年から続き、今年度44回が予定されていた「わんぱく生活学校」。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、やむなく今年度は中止とさせていただきます。

バスの中、バンガローの中、食事の準備・・・それらはソーシャルディスタンスを保つての活動は難しく、また、警戒宣言で休校が続く夏休みも短縮される状況下で、実施するのは難しいと判断しました。

リーダーとなって頑張ろうと思っていた子どもたち、今年は2年生になって参加を楽しみにしていたお友だち・・・本当にごめんなさい。来年は、絶対にみんなで行けるようにするために、今、コロナをみんなの力で封じ込めることができるように頑張るしかないと考えています。

本当に残念ですが、ONEぱーくに参加して野外活動の腕を磨いておきましょう。